

## 請 願 ・ 陳 情 文 書 表

( 陳 情 )

陳情第 10 号

道路 ( 通学路 ) 整備に関する陳情 ( 継続審査 )

( 陳情の趣旨 )

青森県立聾学校(青森市大字安田字稲森 125 番地 1 )正門前を東西に延びる通学路には歩道がない。通学時間帯の通行車両は多く、冬道になると脱輪する車両が絶えず、通学路としては危険であり、聴覚障害者にとってはさらに危険である。

それに比べ、接続する青森県立南高等学校の通学路はよく整備されており、これを見て、聾学校の生徒たちはどんな思いしているのか。平等に教育を受ける権利を有する子どもたちの成長過程に悪影響を及ぼすことはないものか。そして、人権尊重を人数の多少で評価してはいないか。一人一人の人間を大切にすることは、憲法及び児童の権利に関する条約が予定していることから心を痛める。

資源の乏しい我が国において、人材育成は国の命運を握っており、子どもは平等に教育を受ける権利を有するという観点から、そして障害者に対する壁をつくった側として、壁を取り除く努力をすることは健常者の責務だとの考えから、一日も早い道路整備をするよう、陳情する。

( 陳情事項 )

青森県立聾学校正門前を東西に延びる通学路 ( 約 690 メートル ) に、それぞれ専用の歩道及び自転車道を整備し、聴覚障害者通学路である旨の標識を当該道路西端及び東端に各 1 カ所、途中 2 カ所の計 4 カ所増設すること。

平成 23 年 11 月 10 日

陳 情 者 青森市大字駒込字月見野 299 番地 219  
鳴井 勝敏

---

陳情第 11 号

住宅リフォーム助成制度の来年度継続実施を求める陳情 ( 不採択 )

( 陳情の趣旨 )

平成 23 年第 1 回青森市議会定例会において全会一致で採択された住宅リフォーム助成制度は、市民と中小零細業者から大変な反響を呼び、申し込み件数は 576 件、助成申込額は約 8967 万円、総工事費は約 10 億 1841 万円と公表された。しかしながら、予算の増額がなかったため、抽選の結果、266 人の方が漏れてしまうこととなった。

これだけ市民からの要望が高い当該制度に対して、抽選から漏れた市民は不公平感や助成金をもらうことができないのなら工事を考え直すなど、意欲が失われかねない。さらに当該制度が今年度限りで終了すれば、経済対策としての目的が途中で終わることが懸念される。市内経済状況を見ると建築関連業種以外への波及効果が出るまでには至っていない。

よって、住宅リフォーム助成制度を来年度も継続実施することを求め、陳情する。

(陳情事項)

1、住宅リフォーム助成制度を来年度も実施すること。

平成 23 年 11 月 15 日

陳 情 者 青森市長島 3 丁目 21 - 8

青森民主商工会

会長 田附 衛

---

陳情第 12 号

元気都市あおもり住宅リフォーム助成事業の継続を求める陳情(採択)

(陳情の趣旨)

平成 23 年度に本市が経済対策として実施した元気都市あおもり住宅リフォーム助成事業は、仮申し込み件数が 576 件、助成予定金額が約 8968 万円、対象工事費が約 9 億 8780 万円となり、誘発されたと考えられる経済効果は、約 11 倍となっている。

本市の経済情勢が、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災や急激な円高などにより、依然として厳しい状況にある中で、当該事業のもたらす経済効果は、すそ野が広い住宅リフォームに関連する建築業界のみならず、非常に大きいものであり、市民や関連する中小企業からも事業の継続が強く望まれている。

また、東日本大震災により、市民の住宅に対する安全性、耐震性など、住環境向上への関心度や必要性も高まっている。

今年度限りで当該事業を終了することは、経済対策を一過性のものとし、さらなる経済効果を生み出すチャンスをつぶすことにもなりかねない。

以上のことから、元気都市あおもり住宅リフォーム助成事業を経済対策並びに住環境向上対策として、来年度も実施していただくよう、陳情する。

(陳情事項)

来年度も今年度同様に、元気都市あおもり住宅リフォーム助成事業を継続していただきたい。

平成 23 年 11 月 18 日

陳 情 者 青森市柳川一丁目 2 番 88 号

青森市建築組合

組合長 三浦 武徳

---

陳情第 13 号

青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸の保存に関する陳情(継続審査)

(陳情の趣旨)

私は、メモリアルシップ八甲田丸が青函連絡船として就航したときから5年間乗船勤務した。

昭和63年3月13日、最終航海にも機関長として乗船し、現役最後の姿を見届けた。

青函航路廃止に伴い、八甲田丸も廃船、解体される運命にあったが、いち早く青森県が引き取り、メモリアルシップとして保存していただき、元乗組員としては何よりうれしく、また八甲田丸は心のよりどころでもあることから、青森市民の皆様から心から感謝する。

現在、週末、祝日限定で案内ボランティアを務めており、東北新幹線新青森駅開業以来、多くの方々が八甲田丸を訪れている。

子どもが目を輝かせて船橋の機器を操作したり、連絡船に乗ったことのある年配客が懐かしそうに当時の思い出を語る姿が多く見られ、喜びや悲しみ、希望や不安等、それぞれの人生を抱えて津軽海峡を渡った多くの人に「私の連絡船」という思い出があると思う。また、連絡船に乗ったことのある人にとっては、望郷の場であり、初めての人にとっては、歴史を体験できる貴重な場所となっている。

平成21年2月6日付で経済産業省から近代化産業遺産に、平成23年8月7日付で日本機械学会から歴史的に意義のある機械遺産に認定された。

八甲田丸建造の昭和39年は、東京オリンピック開催、東海道新幹線が開業し、日本が高度成長時代に入っていった年であり、八甲田丸は当時の造船界、そして日本の機械技術の粋を結集して、設計、建造された造船機械の集大成とも言える。

建造以来、47年経過したが、ほとんど原形をとどめて浮いており、貴重な歴史的資源と考えている。

厳しい財政事情と思うが、遺産の継承について、青森市民の配慮をいただくよう、陳情する。

(陳情事項)

青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸を歴史的資源として、今後とも継続して管理すること。

平成23年11月25日

陳 情 者 青森県平川市四ツ屋亀田54番地  
葛西 鎌司

---

陳情第14号

青森ねぶた祭により、本市の経済効果をより発展させるための陳情(不採択)

(陳情の趣旨)

本市が世界に誇る火祭りである青森ねぶた祭は、1980年に国の重要無形民俗文化財の指定を受け、毎年多くの観光客を魅了している。

だれでも参加できる自由参加型の祭りに乗じ、1980年代にカラスハネトが出現し、1990年代には混乱期を迎えた。

対策として、2001年に青森県迷惑行為等防止条例が制定され、同年7月1日から施行されたことに伴い、主催者側も運行スタイルを吹き流し方式から一斉スタート方式に変更した。

近年、これらの取り組みの成果があらわれ、カラスハネトは年々減少し、今では祭りの参加に関しては、ほぼ排除することが完了したが、同時に祭り本来の魅力が薄れたとの声も多く、観光客及び祭

り参加者が年々減少傾向にあり、経済効果も年々減少している現状にある。

青森ねぶた祭は、歴史的に吹き流し方式で運行されてきた祭りであり、この方式で運行されていた時代は、魅力的であったとの声が圧倒的に多く、重要無形民俗文化財としての誇りある祭りに戻すべきであるという多くのねぶた関係者の声を反映させ、魅力あるねぶた祭りにしていただくよう、陳情する。

(陳情事項)

重要無形民俗文化財に指定されている青森ねぶた祭をより魅力あるものに発展させ、ねぶた祭で得られる経済効果がより大きくなるよう検討し、本来の運行スタイルである吹き流し方式に戻すことなどを関係団体に働きかけること。

平成 23 年 11 月 29 日

陳 情 者 青森市筒井 1 丁目 9 - 13 - 6 号  
青森ねぶた祭りを考える会  
代表 工藤 信孝

---

陳情第 16 号

青森ねぶた祭により、本市の経済効果をより発展させるための陳情（不採択）

(陳情の趣旨)

本市が世界に誇る火祭りである青森ねぶた祭は、1980 年に国の重要無形民俗文化財の指定を受け、毎年多くの観光客を魅了している。

だれでも参加できる自由参加型の祭りに乗じ、1980 年代にカラスハネトが出現し、1990 年代には混乱期を迎えた。

対策として、2001 年に青森県迷惑行為等防止条例が制定され、同年 7 月 1 日から施行されたことに伴い、主催者側も運行スタイルを吹き流し方式から一斉スタート方式に変更した。

近年、これらの取り組みの成果があらわれ、カラスハネトは年々減少し、今では祭りの参加に関しては、ほぼ排除することが完了したが、同時に祭り本来の魅力が薄れたとの声も多く、観光客及び祭り参加者が年々減少傾向にあり、経済効果も年々減少している現状にある。

青森ねぶた祭は、歴史的に吹き流し方式で運行されてきた祭りであり、この方式で運行されていた時代は、魅力的であったとの声が圧倒的に多く、重要無形民俗文化財としての誇りある祭りに戻すべきであるという多くのねぶた関係者の声を反映させ、魅力あるねぶた祭りにしていただくよう、陳情する。

(陳情事項)

重要無形民俗文化財に指定されている青森ねぶた祭をより魅力あるものに発展させ、ねぶた祭で得られる経済効果がより大きくなるよう検討し、本来の運行スタイルである吹き流し方式に戻すことなどを関係団体に働きかけること。

平成 23 年 11 月 29 日

陳 情 者 青森市古川1丁目5-1  
現青森駅周辺活性推進会  
会長 福士 義昭